

○くまもと春の植木市

冬の間、母が、三色パンジー、葉牡丹の寄せ植えで、庭を飾って過ごしていたのが冬の恒例の行事でしたが、本当に、正月が明ければ、毎年、春の到来が待ち遠しいもので、春の到来とは、人によっては、小鳥のさえずり、愛玩動物（犬、猫、金魚）の元気の良さかもしれないが、私は、植物の開花を表しているみたいに解釈している。JA春の植木市は合志町で1月20日から2月19日の一カ月なのに対して、熊本市の春の植木市は、立春近い2月1日からである。地震の前は、戸島町いこいの広場で開催されていたが、地震以後は昔の白川河川敷で、再度、開催されているみたいである。熊本は、園芸植物の売り買いが盛んなためか、それを生業にしている人も多く、近くの福岡県、鹿児島県などにも、九州の中央に位置する利点を生かして、春の植木市の宣伝隊を送り出しているみたいである。観葉植物の手入れとして、肥後椿、肥後菊、肥後朝顔等の肥後六花の歴史も古く、古風な趣味の持ち主も決して少なくないと思うが、どうであろう。高知県に観光に行った際、尾長鶏を見たが、その手入れも大変みたいであった。もう、家の園芸の母の整備は、頭の中で整理されているのか、決まった季節に、決まった花々が咲くみたいである。以前は、チューリップ、クロッカス等も、春の植木市で買う前に、前年の秋、11月頃に、それぞれの球根を植えて、年の明けた春の準備をしていたものである。春の到来は、サクラの開花が一般的だが、植木市に顔を出すと、もう一足早く、色とりどりのチューリップ、ヒヤシンスの花が、促成栽培されて、店頭から視界に入ると、心も何故かしら、春を近いものとして感じて浮き浮きしたものである。また、確固たる趣味の世界として、盆栽の世界、錦鯉の世界があるが、昔、生前のそのような事を趣味としていた故父の手伝いをしていた頃を、思い出させてくれる。また、最近、母は、そこで買った芍薬の花が咲く初夏のゴールデンウィークを楽しんでいるようだ。家の庭も完備されて、植木市にも足は遠のいた。

郵便はがき

□□□□□□□□



非木竹紙はがき
さくらめーる



くまもと春の植木市
水墨画絵はがきセット

